

こうして、わたしたちはローマに着いた。

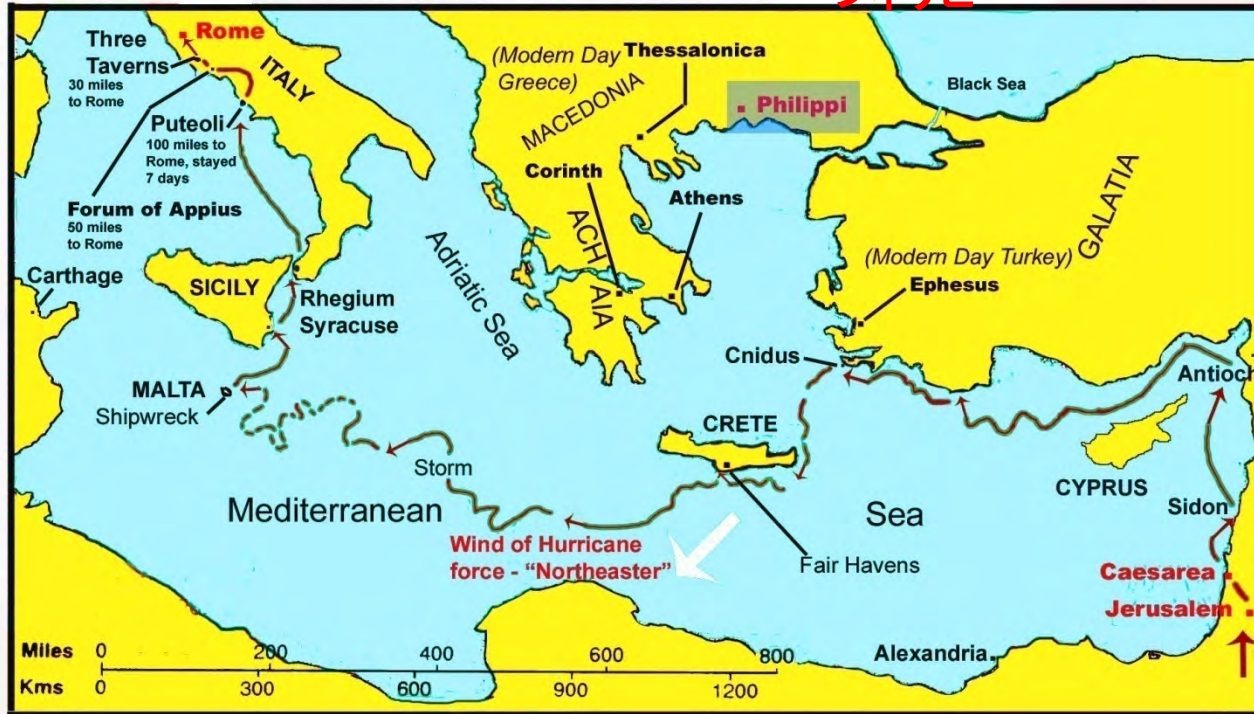
クラス③
カイサリアでの拘留

パウロの拘留された場所とローマへの旅

Places of Paul's custody and his voyage to Rome

ローマ

フィリッピ



カイサリア
エルサレム

Copyright 2003 by Central Christian Church.

Legend

- Cities where Paul was held in custody
- Main cities where the gospel spread

パウロはカイサリアに2回拘留された。

カイサリアはパレスチナ地域を治めていたローマの支配者が住む首都であった。

カイサリアでの拘留の1度目は裁判の前の5日間であった。使徒23: 31-24:1.

2度目は2年間に渡る長い拘留であった。
使徒 24: 1-27.

1. 腐敗した役人達の偽善

①千人隊長、クラウディウス・リシア

千人隊長のパウロへの扱いは不適切で、ローマ市民であるパウロに対して法律違反を犯していた。パウロには正当な事情聴取や裁判は行なわれず、鎖で縛られ、鞭打ちされそうにもなった。パウロがローマ市民であることを後で知り、ある程度自由を与えたが、この事実は総督に充てた手紙には一切書かれていなかった。それどころか、事実を捻じ曲げ、ごまかした。

使徒23:27

この者がユダヤ人に捕らえられ、殺されようとしていたのを、わたしは兵士たちを率いて救い出しました。ローマ帝国の市民権を持つ者であることが分かったからです。

②総督フェリクス

総督フェリクスは、ユダヤ人の人気取りをし、
いい顔を装った。

使徒24: 27

「・・・フェリクスは、ユダヤ人に気に入られようとして、パウロを監禁したままにしておいた。」

③ フェストウス

フェストウスは、皇帝ネロを喜ばせようとした。

使徒25: 25-26

しかし、彼が死罪に相当するようなことは何もしていないということが、わたしには分かりました。ところが、この者自身が皇帝陛下に上訴したので、護送することに決定しました。しかし、この者について確実なことは、何も陛下に書き送ることができません。そこで、諸君の前に、特にアグリッパ王、貴下の前に彼を引き出しました。よく取り調べてから、何か書き送るようにしたいのです。

千人隊長は総督フェリクスを喜ばせることに必死。
フェリクスはユダヤ人を喜ばせることに必死。
フェストゥスはアグリッパ王と皇帝ネロを喜ばせる
ことに必死。

神様を喜ばせることに必死だったのは
唯一、パウロだけだった！

2. 弁護士テルティロの雄弁さ

有能な弁護士だった。総督フェリクスを喜ばせることに必死だった。

使徒24: 2

「フェリクス閣下、閣下のお陰で、私どもは十分に平和を享受しております。また、閣下の御配慮によって、いろいろな改革がこの国で進められています。私どもは、あらゆる面で、至るところで、このことを認めて称賛申し上げ、また心から感謝しているしだいです・・・」

彼は弁護士としてズル賢く、パウロが騒動を引き起こしたことに注目した。当時のローマの法律上、騒動を起こした人への刑罰は非常に重いものであった。

例えばAD59年、ポンペイという街でスポーツ観戦後、騒動が起きた。その結果、騒動を指導した多くの者は遠島に追放され、以来10年間、この街でのイベントは禁止された。

騒動を起こすことは国に対する犯罪として考えられ、とても真剣に扱われていた。

(Trebilco, “Asia”, pg 345)

3. パウロの大胆さ

使徒24:22-23

フェリクスは、この道についてかなり詳しく知っていたので、「千人隊長リシアが下って来るのを待って、あなたたちの申し立てに対して判決を下すことにする」と言って裁判を延期した。そして、パウロを監禁するように、百人隊長に命じた。ただし、自由をある程度与え、友人たちが彼の世話をするのを妨げないようにさせた。

総督フェリクスはパウロの弁明を聞いて、明らかに強く影響を受けた。ローマ市民であることを知っていたので、ある程度の自由を与えた拘留を命じた。

使徒24:24-27

数日の後、フェリクスはユダヤ人である妻のドルシラと一緒に来て、パウロを呼び出し、キリスト・イエスへの信仰について話を聞いた。しかし、パウロが正義や節制や来るべき裁きについて話すと、フェリクスは恐ろしくなり、「今回はこれで帰ってよろしい。また適当な機会に呼び出すことにする」と言った。だが、パウロから金をもらおうとする下心もあったので、度々呼び出しては話し合っていた。さて、二年たって、フェリクスの後任者としてポルキウス・フェストウスが赴任したが、フェリクスは、ユダヤ人に気に入られようとして、パウロを監禁したままにしておいた。

パウロは総督フェリクスに対し、2年間も大胆に説教した。その後、総督はフェストゥスに変わり、パウロはフェストゥスにも大胆に語り続けた。フェストゥスはパウロの裁判をエルサレムで開くよう提案したが、これはパウロを暗殺するためにユダヤ人が考えた陰謀であることをパウロは知っていた。

パウロは命の危険にさらされる環境に置かれたにもかかわらず、アグリッパとベルニケに対し、大胆に語った。

使徒25:23

翌日、アグリッパとベルニケが盛装して到着し、千人隊長たちや町のおもだった人々と共に謁見室に入ると、フェストゥスの命令でパウロが引き出された。

使徒26:28

アグリッパはパウロに言った。「短い時間でわたしを説き伏せて、キリスト信者にしてしまうつもりか。」

アグリッパはパウロの説教から明らかに影響を受け、反応していた。

カイサリアでの拘留期間、パウロは以下の人に対して大胆にキリストの福音を伝えた。

- i) 自分を暗殺しようとしたユダヤ人指導者
- ii) フェリクスの妻 ドルシラ
- iii) 総督フェストゥス
- iv) アグリッパ王
- v) 女王ベルニケ
- vi) その他カイサリアに滞在したローマ帝国の役人

4. パウロの高潔さ

パウロは拘留されていた2年間、高潔さの面で一切揺らがなかった。パウロは多くの兄弟姉妹や友達、カイサリアの教会にも支えられていた。

フェリクスは、パウロには金銭的支援の入手元があったと分かっており、賄賂を払わせようと何度も誘惑した。

あなたはパウロのように2年間か誘惑されながら、真面目に高潔に生き続けられますか。

2ヶ月間、2週間でも誘惑と戦えますか。

総督フェリクスは腐敗した人間だった。

歴史学者タキトゥスによると、フェリクスは「あらゆる残酷な業や情欲な業を行なった」

歴史学者スエトニウスによると、フェリクスは「3人の女王を妻としていた」

5. パウロの作戦

神の御心はローマでイエスのことを証しすることであったので、パウロはそれを成し遂げるために皇帝ネロに上訴した。

使徒25:11-12

「・・・私は皇帝に上訴します。」

そこで、フェストゥスは陪審の人々と協議してから、「皇帝に上訴したのだから、皇帝のもとに出頭するように」と答えた。

使徒23:11にあるとおり、パウロは主イエスからのビジョンを成し遂げるために、ローマ市民権を利用してローマに向かった。

あなたには、人にキリストの福音を伝えるための**作戦**がありますか。

または、時の流れに任せてしまっていますか。

パウロの作戦

これまでのパウロの作戦

- i) フィリピ：ローマ市民権について最後まで明かさなかった。その理由はマケドニア地方の伝道を遅らせないためであった。その結果、酷く鞭打ちされ、牢屋にも入れられた。
- ii) エルサレム：ローマの市民権について最後まで明かさなかった。その理由はなるべく多くのユダヤ人に救われるチャンスを与えるためであった。その結果、酷く打たれた。
- iii) カイサリア：ローマ市民権を利用してローマに到達することができた。本来なら自由になれたはずであったが、この作戦の結果、2年間拘留された。

あなたはどのような作戦によって人に救いの
チャンスを与えていますか。

人に救いのチャンスを与えるため、どれほどの
代価を払う覚悟がありますか。

質問:

- 1)自分より「偉い」人にキリストの話をするのは怖いですか。
- 2)どこまで妥協せずに高潔さを保ちますか。
- 3)嘘をついたり賄賂を払うなど不正を行なうように誘惑され、プレッシャーをかけられても、清く正しく生きる確信はありますか。

暗証聖句

使徒24:25

しかし、パウロが正義や節制や来るべき裁きについて話すと、フェリクスは恐ろしくなり、「今回はこれで帰ってよろしい。また適当な機会に呼び出すことにする」と言った。